

大島町復興町民会議 元町地区復興まちづくり分科会報告（第1回～7回）

1. 開催概要

■毎週木曜日 18:00 開催

	開催日時	検討事項	資料	参加者
第1回	平成26年 5月8日（木） 19時～21時30分	① 策定委員会委員紹介 ② 個別ヒアリング結果報告 ③ 今後の進め方	・元町地区復興まちづくり分科会 検討事項 ・大島町被災者個別ヒアリング（第1回）概要報告	分科会委員42人 復興計画策定委員会 中林委員長 饗庭委員 市古委員
第2回	平成26年 5月15日（木） 18時～21時20分	① 東京都の土砂災害対策について	・東京都の土砂災害対策について	分科会委員44人 都大島支庁 土木課長・土砂災害対策担当課長
第3回	平成26年 5月22日（木） 18時～20時45分	① 被災者住宅再建と元町地区まちづくりについて ② グループワーク ③ 各グループでの検討事項について ④ その他	・住宅再建に活用できる支援の紹介	分科会委員36人 復興計画策定委員会 中林委員長 市古委員
第4回	平成26年 5月29日（木） 18時～20時15分	① 第3回分科会のふりかえり ② グループワーク ③ 各グループでの検討事項について ④ その他	・第3回分科会 検討のまとめ ・住宅再建フロー	分科会委員27人
第5回	平成26年 6月19日（木） 18時～20時40分	① 第4回分科会のふりかえり ② 大金沢流路改修案について ③ ゾーン別復興まちづくりの方向性について ④ グループワーク ⑤ 各グループでの検討事項の発表 ⑥ その他	・第4回分科会 検討のまとめ ・元町地区復興まちづくりの方向性（案）	分科会委員41人 復興計画策定委員会 中林委員長 東京都河川部・大島支庁
第6回	平成26年 7月3日（木） 18時～20時	① 第5回分科会のふりかえり ② 報告事項 ・Cゾーン個別ヒアリング結果について ・防災まちづくり分科会、産業・観光復興支援分科会中間報告 ③ 良好な市街地形成に向けて（意見交換） ④ 今後の進め方について ⑤ その他	・第5回分科会 検討のまとめ ・復興町民会議 防災まちづくり分科会報告、産業・観光復興支援分科会中間報告	分科会委員25人 復興計画策定委員会 饗庭委員 市古委員 都大島支庁 土木課長・総務課長・土砂災害対策担当課長

	開催日時	検討事項	資料	参加者
第7回	平成26年 8月1日(金) 18時～20時	① 前回分科会における意見交換の確認 ② 復興計画素案について ③ 元町地区の復興まちづくり計画(B、Cゾーン検討の進め方)について ④ 今後のスケジュールについて ⑤ その他	・第6回元町地区復興まちづくり分科会 検討のまとめ ・元町地区の復興まちづくりの進め方フロチャート ・元町地区の復興まちづくり計画(B、Cゾーン検討の進め方)	分科会委員23人 都大島支庁 土木課長・総務課長・土砂災害対策担当課長・港湾課長

2. 主な意見等

	テーマ	主な意見等
第1回	個別ヒアリング	・神達地区内の無被害の住民へのヒアリングは行わないか ・被害現場を見ながらの聞き取りも行ってほしい
	今後の進め方	・ある程度、前提となる条件を提示してもらわないと、話し合いが進まない ・安心して暮らすためには、大金沢の流路改修などの検討も必要 ・長期避難世帯なども分科会に参加してほしい
	その他	り災証明の判断基準 ・査定する人によって判断が異なるようなので、判断基準を明確にしてほしい 生活再建支援への要望 ・二重ローン対策、被災者のペット対応も入れてほしい
第2回	大金沢流路	・被災者が安心できる改修を行ってほしい ・流路の改修計画を早期に示してほしい ・他の沢に分担して大金沢の水量の負荷を軽減してほしい
	橋の改修	・流木がつまらないように改修すべき
	土砂災害対策全般	・梅雨に向けた応急対策の根拠資料を提示してほしい ・仮設導流堤は不安なので計画を見直してほしい ・梅雨に向けて応急対策を迅速に進めてほしい
	道路の冠水対策	・道路(都道・町道)の排水能力を改善して欲しい ・電力施設が冠水しないようにして災害時の電力確保対策をとってほしい
	その他	・町、都で一つのチームとして窓口を一本化して要望に対応してほしい
第3回	<p>○3つのグループに分かれて、以下のテーマでワークショップ形式の意見交換を実施</p> <p>① 移転希望者の多いAゾーン、Bゾーンの土地利用をどのように考えますか？ ② 堆積工から河口まで、流路にどのような不安がありますか？ ③ 住宅再建、生活再建について、どのような要望がありますか？</p> <p><代表的な意見></p> <p>① A・Bゾーン : 住むには不安が大きい。住めないのが公有地化して欲しい。住めるなら住みたい。住んでいる人の意見が大事。公園や緑地、産業振興に利用できないか。安全確保のため土砂を受け止める場所等に活用できないか。</p> <p>② Cゾーン : 大金沢流路の改修(拡幅・水深を深くする・線形を緩やかにするなど)遊歩道・管理道路・緑地帯の設置など 現状では、住宅再建の方向性が出せない</p> <p>③ 住宅・生活再建: いずれの地域でも、住んでいい場所かどうかわからない、という意見(行政側で決めてほしい) 被災した土地の買い取り 被災事業者への支援</p>	

	テーマ	主な意見等
第4回	<p>○家の上・神達・丸塚一帯（Aゾーン、Bゾーン）、大金沢流路周辺（Cゾーン）、元町2・3丁目一帯（Dゾーン）のグループに分かれて、以下のテーマでワークショップ形式の意見効果を実施（各設問ごとに、ゾーン別の特性や悩み等について伺う）</p> <p>①生活再建について、どのようなご要望がありますか？</p> <p>②住宅再建を考える上で、何がネックとなっていますか？</p> <p>③ゾーンごとの土地利用についてどのようにお考えになりますか？</p> <p><班ごとのまとめ></p> <p>① A・Bゾーン：住む（事業継続）には、周辺環境の整備が必要 その上で、被害が甚大だった場所は公的施設として整備して欲しい</p> <p>② Cゾーン：行政の計画が示されない段階で、住宅再建は考えられない</p> <p>③ Dゾーン：このまま生活の拠点として、住み続ける地域として確認 その上で、流路改修や道路排水能力の向上で、安心して住める対策を希望</p>	
第5回	<p>○3つのグループに分かれて、以下のテーマでワークショップ形式の意見交換を実施</p> <p>①大金沢流路の整備のあり方について</p> <p>②Cゾーンのまちづくりの方向性について</p> <p><代表的な意見></p> <p>① 大金沢流路の改修：両側に管理用通路を確保することで今よりは安心できる 流木がつかまらないように橋の整備も必要 既存の生活道路がなくなると宅地への出入りができなくなる 流路両側や丸塚橋から上流にも散策路となる道路が必要ではないか 災害を学ぶことのできる施設としても利用したい 個別ヒアリングで流路沿川の方の意向把握が必要 地権者の気持ちを第一にすべき</p> <p>② Cゾーンのまちづくり：移転先の宅地を確保してほしい 被災した土地を売却したい 避難経路や避難タワーなど津波対策も必要 河川改修だけでなく面的なまちづくりを検討し、住宅再建と流路の安心整備を一体的に進める必要がある</p>	
第6回	<p>良好な市街地形成に向けて</p> <p>まちづくりの取組みについて</p> <p>復興推進に必要なこと</p> <p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・機能性だけでなく、デザイン性を取り入れてほしい。 ・弘法浜に衛生上の影響がでないように、流路に流す生活排水の浄化をしてほしい。 ・元町港周辺を今風のまちなみにして、島内の各地域は特有の個性を活かしたまちなみにすると、何度も訪れたい島になる。 ・流路沿いをランニングコースにできるように整備すると、スポーツ選手なども呼び込むことができ、まちの活性化につながる。 ・椿、大島桜、カンゾウ、スカシユリなど大島の植物や植生を用いて流路沿いを整備し、大島らしいまちになるとよい。 ・デザイン性を検討する前提として、どのようなお客様を島に呼び込むか、どんな島にするかを検討する必要がある。 ・「良好な」とは、住みやすいという良好なのか、観光に良好なのか、子ども達にとって良好なのか、いろいろな観点がある。 ・学生や企業などを呼び込んで、まちづくりコンペを開催してほしい。 ・まちづくりについて町民が話し合う場を継続して確保してほしい。 ・まちづくりが具体的に決まっていく過程について、教えてほしい。 ・ジオパーク推進の一環として、学会などへの働きかけや防災教育に取り組んでいる。 ・激甚災害指定により、復興まちづくりの予算はどのくらい確保されているか。 ・島全体に活性化に向けて、事業者の再建支援を行ってほしい。 ・行政の復興担当職員は、継続して復興業務にあたってほしい。 ・移転用地の資料など、具体的に住宅再建に有益な資料を提示してほしい。 ・公園整備や区画整理事業などを活用して被災した土地を利用することができるようにして、土地の価値をあげてほしい。 ・わからない言葉が多いので、わかりやすく説明してほしい。 ・ひとりひとりの意見に対して、事務局からの回答がほしい。

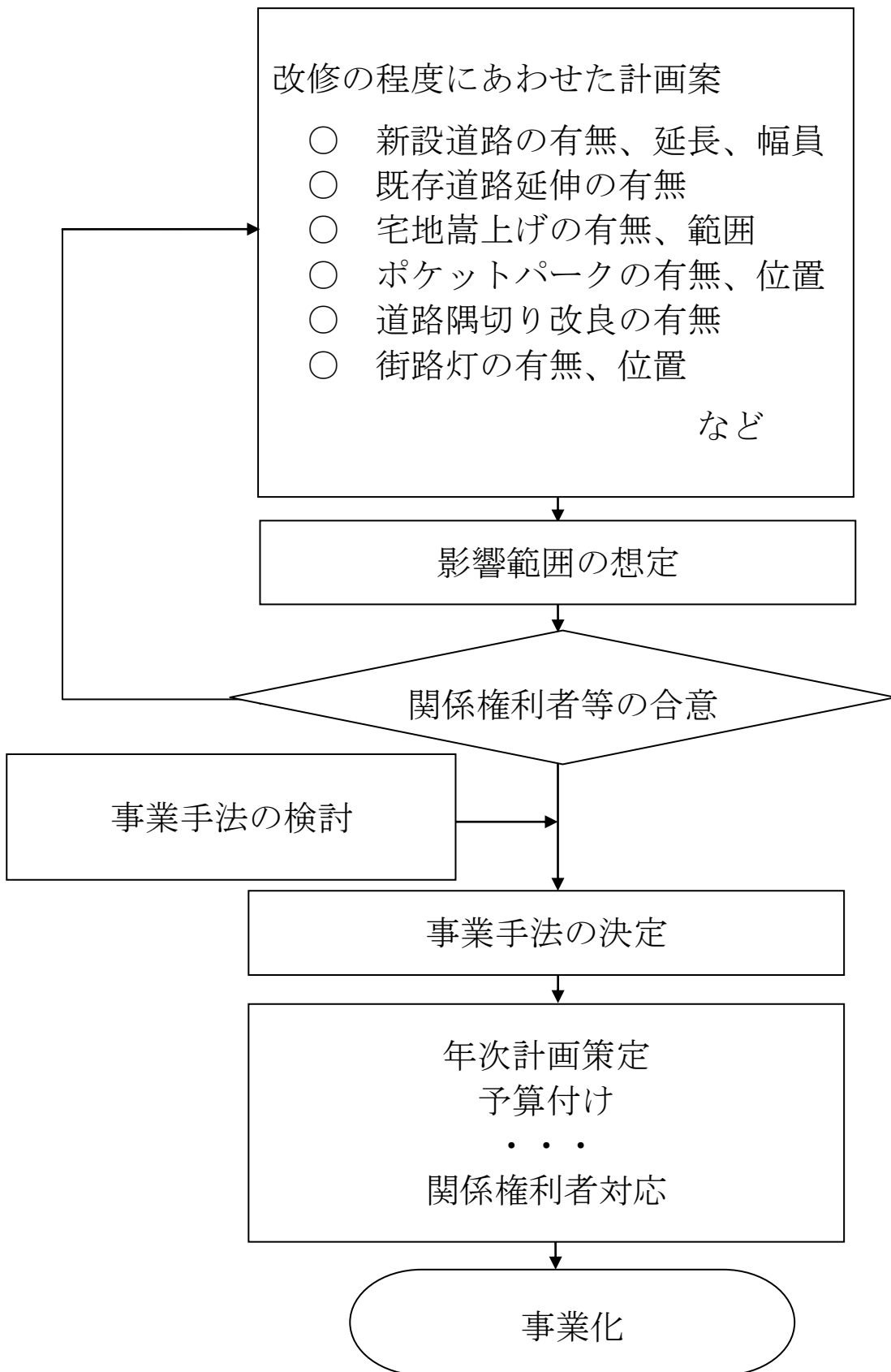
	テーマ	主な意見等
第7回	復興計画素案について	<ul style="list-style-type: none"> ○被災者生活再建支援 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちへの就学支援の対象を拡大してほしい。 ・被災者生活再建支援金の支給期間を延伸してほしい。 ・横断的で、ある程度の権限のある職員を配置した実効性ある総合相談窓口としてほしい。 ○地域基盤・インフラの復旧 <ul style="list-style-type: none"> ・浅い層の地下水を考慮した土砂災害対策を検討してほしい。 ・被災者が安心して住める裏づけとなるよう、雨水排水対策を推進してほしい。 ・災害対策はわかりやすく広く住民に周知してほしい。 ・最近発生した土砂災害の教訓も土砂災害対策に反映してほしい。 ○産業・観光復興支援 <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業の再建支援を充実させてほしい。
	元町地区の復興まちづくり計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・大金沢流路改修のタイムテーブルを教えてください。

第6回元町地区復興まちづくり分科会 検討のまとめ

検討テーマ：良好な市街地形成について

項 目	主なご意見等
住宅再建、生活再建	<ul style="list-style-type: none"> ・被災した土地や流路のかかる残地を買い取ってほしい ・土地の価値をあげる利用方法を検討してほしい。 ・移転先候補の土地情報など、住宅再建の具体的な情報がほしい。 ・事業所の再建に向けても支援策がほしい」 ・被災した土地を、住める、商売できる、畑に使えるなど利用できるよう整備して、土地の評価をあげてほしい。 ・復興まちづくりのプロセスの中で、暫定的な土地の利用も考えてはどうか。
観光振興にも役立つ街並みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・弘法浜にいたる景観になるので、機能性だけでなくデザイン性をとりいれてほしい。 ・観光地としてのコンセプトづくりが必要。 ・島内のそれぞれの集落が、それぞれの個性をもってアピールして、様々な個性が競い合う島にしてはどうか。 ・元町は現代的な雰囲気が良い。 ・大金沢流路沿いにランニングコースになる道を整備すると、スポーツ選手の誘致やスポーツ振興に役立てることができる。 ・ジオパークなどを活用して、学会を誘致するなど、観光振興に役立つ取り組みができる。 ・魅力ある街並みづくりは、観光客の誘致や定住促進にも役立つ。
自然と調和した街並みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・椿、大島桜、カンゾウ、スカシユリなど、大島の植物を用いて、大島らしさのある街並みにしたい。
災害に強いまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ハード対策とソフト対策を組み合わせると安全なまちづくりを進めるとよい。 ・安心して住み続けるためには、避難など災害時の助け合いの計画づくりなども必要。
街並みづくりの検討方法	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の専門家、学生、企業の知恵を集める「まちづくりコンペ」などを実施してはどうか。 ・住民が納得できるまちづくりの話し合いの場を設置してほしい。 ・気軽に話し合いのできる場を設けると、まちづくりのアイデア出しがみんなのできる。

元町地区の復興まちづくりの進め方フロチャート



元町地区の復興まちづくり計画（B, Cゾーン検討の進め方）

※本紙は、今後策定する「大島町復興計画」に基づき「元町地区の復興まちづくり計画」を地域の皆さんとつくり上げていくための進め方を示したものです。



Cゾーン（本川堆積工～丸塚橋～元町橋～河口） 「大金沢流路改修にあわせ、安心空間の整備と住宅再建を推進する」

流路改修に伴う課題

- 改修された流路の横に道路をつくるか否か ※元町橋下流の左岸側はつくる（土地所有者との調整、まちとしての機能）
- 改修された流路と隣接する建物との関係（出入口の向き、高低差など）
- 流路横に建替え予定のないスペースが生じる

もともとの課題

- 流路の護岸天端より、隣接宅地の方が低い場所がある
- 道路交差部の見通しが悪い
- 街路灯がなく暗い
- 道路が行き止まりになっている
- 道路が狭い

解決策

町道整備、出入口の変更、道路の擦り付け、宅地の嵩上げ、広場整備、道路隅切り整備、街路灯設置、抜けられる道路整備、道路拡幅、道路新設整備

事業手法 ※解決策の内容によって事業手法は異なる

都市防災総合推進事業（復興まちづくり総合支援事業）、道路整備事業など

Bゾーン（神達地区の導流堤の下部の地域） 「被災者等の意向を尊重しつつ、公園を中心としたオープンスペースとして利用」

今回の被災に伴う課題

- 建替え予定のないスペースが生じる
- 道路などの生活インフラが復旧していない

解決策

メモリアルパークの整備
（コンセプト、整備範囲、樹木の種類、遊歩道の配置、休憩施設など）
アクセス道路の整備
（歩行者・車両動線、沿道の景観、公共交通活用の有無など）

事業手法

都市計画公園事業など

元町地区復興まちづくり分科会（第7回）議事要旨

1. 日時 平成26年8月1日（金） 18:00～19:43

2. 場所 開発総合センター2階 大集会室

3. 議事内容

- (1) 前回分科会における意見交換の確認
- (2) 復興計画素案について
- (3) 元町地区の復興まちづくり計画（B、Cゾーン検討の進め方）について
- (4) 今後のスケジュールについて
- (5) その他

4. 確認事項

○今後の進め方について

- ・大金沢流路の改修に伴う課題、もともとあった課題、今回の被災に伴う課題に対し解決策を検討し、関係権利者等のご意見をいただきながら計画案を作成する。

5. 主な発言

○復興計画素案について

<被災者生活再建支援>

- ・【住民意見】子どもたちへの就学支援の対象を大学卒業までに拡大してほしい。
⇒ 子どもたちへの就学支援については、より具体化したいので、ご提案をいただきたい。
- ・【住民意見】被災者生活再建支援金の加算金の支給期間と、期間を延伸できるかを確認したい。
⇒ 国の制度は発災から37か月であるが、都の制度は1年ごとの延伸となっており、都に延伸の要望を出している。
- ・【住民意見】被災者生活再建支援の総合相談窓口には、横断的で、ある程度権限のある担当者を配置して実効性あるものにしてほしい。
⇒ ご指摘は重く受け止め、内部で協議する。

<地域基盤・インフラの復旧>

- ・【住民意見】PDR工法という浅い層の地下水を抜くための工法があるので、応急対策として検討してもらいたい。
⇒ 地すべりに対して有効な工法であるが、土石流対策としては一般的な工法ではない。
- ・【住民意見】浅い層の地下水をより深いところに流すことは有効だという専門家の提言があったので、今後の課題として受け止めてほしい。
- ・【住民意見】被災者が安心して住み続けられる裏付けとなるように、雨水排水対策を進めてほしい。
⇒ 雨水排水対策は前倒しで進めていくこととしており、町と都で連携して雨水排水計画を策定す

る。

- ・【住民意見】土砂災害が発生したときの雨量を想定して対応すると考えてよいか。
⇒ 当時の雨量は道路の設計基準を超えたものであったため、ハード対策とソフト対策を組み合わせ対応していく必要がある。
- ・【住民意見】海に近い場所の住民は気づかないうちに被害にあっていることから、雨水排水対策はわかりやすく、広く周知してほしい。
- ・【住民意見】長野県南木曾町でも土砂災害が発生して犠牲者が出た。これらの災害をふまえて流路の改修などに反映することを検討できないか。
⇒ これらの災害をふまえて国も検討することになると考えられるため、できる範囲で対応したい。

<産業・観光復興支援>

- ・【住民意見】中小企業の再建については具体的な救済策がない。事業所の再建支援をお願いしているが、居宅と一緒に再建でなければ支援策はないか。
⇒ 中小企業の支援策については、現在、財源を検討しているところであり、独自の支援制度を創設したいと考えている。先行して再建をする場合は、領収書や契約書などの書類は保存してほしい。
- ・【住民意見】社員寮が被災し、従業員の社宅を確保しなければならないが、どこに相談してよいかわからない。
⇒ どこまで対応できるかはわからないが、離島という特性もふまえて社員確保に対する方策についても誠意をもって対応したい。

○元地区の復興まちづくり計画について

- ・【住民意見】大金沢流路の改修のタイムテーブルを教えてください。
⇒被災者生活再建支援金の加算金の期限は発災から 37 か月であり、方向性を決めていかなければならない時期であると認識している。生活道路の整備などの段取りを示すことができるよう努力する。

以 上